

ニンジン 適期の種まきと灌水で発芽を万全に

芸研究者 ● 成松次郎

ニンジンの発芽適温は15～25度で、7～10日で発芽がそろいますが、35度以上では発芽しません。発芽直後の種は乾燥すると枯死し、過湿では酸素不足で発芽不良になります。その後の生育適温は20度前後の冷涼な気候です。

「品種」耐病性、耐暑性に優れる品種を選びましょう。五寸系では「向陽二号」（タキイ種苗）、「ベーターリッチ」（サカタのタネ）、「ひとみ五寸」（カネコ種苗）などがあります。ミニニンジンは極早生で柔らかく、生食向きです。

「畑の準備」種まきの2週間前に1平方m当たり苦土石灰100gを散布して、深さ30cm程度に耕しておきます。種まきの1週間前に、1平方m当たり化成肥料（NPK各成分10%）100gと完熟堆肥2kgを施し、土とよく混ぜておきます。70～80cm程度の畝幅に、条間20cm、深さ1、2cm程度のまき溝を2条作ります（図1）。

「種まき」畑が乾いているときは、まき溝に灌水（かんすい）をしておきます。溝に種を1、2cm間隔に条まきし、裸種子は5mmの厚さ、ペレット種子の場合は1cmの厚さを基準に覆土します。軽い火山灰土では手でしっかり土を押さえ付けておきましょう。さらに、もみ殻をかぶせて乾燥を防ぐ、黒寒冷しゃの被覆で地温を下げるなどの対策を行います。

「灌水」種まき前に土にしっかりと水を含ませること、発芽後も土を乾かさないことが大切です。なお、黒寒冷しゃなどの日射を遮る資材でべたがけたときは、発芽後すぐに取り除きます。

「間引きと追肥、土寄せ」 1回目の間引きは本葉2、3枚のときに密生部や生育の遅れている株、逆に極端に進んでいる株の間引きます（図2-1）。2回目は本葉5、6枚のときに行い、株間を6～10cmにします。間引く株の根元を手で押さえ引き抜きます（図2-2）。最後の間引き後に1平方m当たり化成肥料50gを追肥し、株元に土寄せして株をしっかりと固定させましょう。収穫期近くには、根の肩の部分にさらに土寄せし、根が緑に着色するのを防ぎます（図3）。

「病害虫の防除」葉はキアゲハの大好物なので、見つけ次第、手で取り除きます。ネコブセンチュウに弱いので連作を避け、前作に被害があるときは作付けを控えましょう。

「収穫」根径5cm程度に肥大した株から順次抜き取ります。年内は肥大が続くので、太り過ぎて裂根しないうちに収穫をします（図4）。8月まきでは、さらに土寄せして越冬させ、葉が枯れた後でも適宜掘り上げて収穫できます。

※関東東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

栽培カレンダー(ニンジン)

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
冷涼地		●	—	—	—	■					
中間地			●	—	—	—	■	■			
暖地				●	—	—	—	■	■	■	■

● 種まき — 生育 ■ 収穫

図1 畑の準備

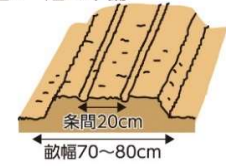


図2-1 間引き①

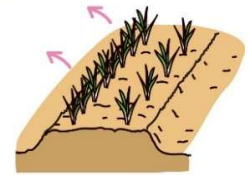


図2-2 間引き②

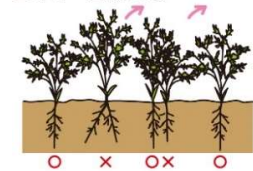


図3 土寄せ

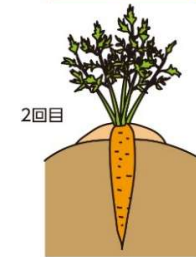
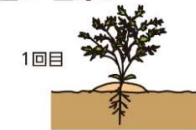
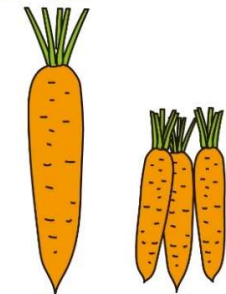


図4 収穫



五寸系ニンジン ミニンジン